

# は じ め に

情報処理センター所長 市川良哉

『情報処理センター年報』第3号を発行するにあたって、当センターの近況を報告いたします。

本年度も、『センターニュース』を発行するほか、対内的には、対象を学生と教職員に分けて、電算機利用に関する講習会や新入職員の研修会などを開催したり、プログラム相談室を開くなど、利用者の便宜をはかってまいりました。また、対外的には、「公開講座・ワープロ入門」を開催し、熱心な多数の受講者がありました。

特記しなければならないのは、センター開設以来5年目を迎えて、従来のホストコンピュータ（NEC ACOS 430/70）に加え、新しい機種を導入が実現したことであります。これによって、来年度からの研究・教育の体制は一段と強化充実されることになり、大きな期待が寄せられています。

新機種導入にあたっては、昨年度はじめ、学内に、機種選定委員会（委員長 今泉教授）を設置して、昨年6月27日に第1回の委員会を開催して以後、委員各位の鋭意検討の努力がなされました。そして10月18日の第6回委員会で、「センター内に設置されるコンピュータシステムは、計算サーバー、外部記憶装置、入出力装置、ワーク・ステーション、端末装置と、これらを接続する機器等から構成される」ことを内容とする『コンピュータシステムの仕様書』が作成されました。これに基づくシステム構成についての提案を、横河・ビューレット・パカード、日本コンベックスコンピュータ、理経、キャノンスーパーコンピュータインギングの各社に依頼して、各社の協力を得ました。各社の提案を委員会で総合判断した結果、日本コンベックス社の提案によるコンピュータシステムを採択することに決定いたしました。

それは、スーパーコンピュータ（CONVEX C3420ES）+グラフィックス端末（シリコン・グラフィックス社 IRIS/Indigo/xs24）+ワーク・ステーション（日本サン・マイクロシステム社 SPARC STATION2 IPX×2台 IPC×35台）などから成るものです。

このコンピュータシステムは、本年9月には機器が導入され、10月には本年度の私立大学等経常費補助金特別補助（情報処理関係設備）が交付される決定の通知を受けました。明年4月からの本格的な利用に向けて、目下、進捗しております情報センターの施設の増設と共に、その準備が着々となされております。

今後、ますます進展する情報化社会に対応する研究・教育の共同利用施設として、当センターの役割を果たすことが出来るよう一層の努力を傾注したいと思います。

最後に、大浦理事長はじめ大学当局の理解と配慮をたまわりましたことに感謝いたします。